



HCFニュース

北海道自転車競技連盟 総務委員会
 札幌市中央区北4条西6丁目1-3
 ツールド北海道内 札幌自転車競技連盟(内)
 発行人 菊地 ひずる
 tel 011-251-1187 fax 011-232-4604
 E-mail: scf-2@sapporo-cf.jp

雨と風の中で行われた札幌市民体育大会サイクルロードレースで今年度の連盟で開催するロードレースが終了しました。後は、10月30日の長沼町でのシクロクロス競技と函館市でのトラック(記録会)を残すのみとなりました。

◎ 札幌市民体育大会での昇格者

S-5→S-4:橋本 幸久選手 S-4→S-3:井上 順貴選手 S-3→S-2:筒淵 徳蔵選手
 S-2→エリート:山田 晋也選手

◎ HCF年間獲得ポイント集計中です。後日発表いたします。

◎ 山口国体(審判)レポート

今年で66回を迎えた国民体育大会(おいでませ山口国体)に審判として参加したので、競技内容等をお知らせします。

10月3日(月)

北海道選手団に同行、羽田を経由し山口宇部空港には15時30分を少し回った時刻に到着した。ツアーチケットのため、今夜はフグで有名な下関に宿泊となった。ホテルは下関駅の直近で、近くには関門橋や巖流島があり九州門司は眼の前に迫っている感じでした。

10月4日(火)

今日は、午後から選手・競技役員の受付や監督会議・競技役員打合せがあるので朝食後ホテルを後にし、防府市へと向う。

選手団は午前中には防府競輪場に到着、先行していた伊藤監督と選手村で合流し明日からのトラック競技の準備に入る。受付はライセンス確認や競技規則に抵触する装備(主に自転車の規格)に関する申告書提出など緊張の時間です。また、監督会議・役員会議では競技中(手放しゴール、斜行による進路妨害他)やマナー違反に対するペナルティーなどの説明があり、今後はマナー違反や審判に対する暴言・抗議に対してもコミュニケで警告する傾向にあった。

10月5日(水)

本格的な競技が始まるのを前に、8名の決勝審判が2班に分かれ種目ごとに分担しゴール順位を目視で判定する業務を行う。チームは愛媛県の1級審判で、競技役員打合せの際には予め用意してきた分担表により審判業務の要領について説明があったが、チームをはじめ他の審判もそのやり取りの中で相当のレベルの高さを感じた。

初日はスプリントの1/8決勝の選考と下位の順位を決めるフライング200^{メートル}の予選及び1000^{メートル}タイムトライアルの決勝が行われた。

スプリントは、菊地涼選手が11"471の5位で1/8決勝へ駒を進め、ここで1本勝てば8位以内入賞が確定する好発進となった。続くTT少年の斉藤蓮選手は13"181で29位、成年田原宥明選手が10"453で24位と入賞には数秒のタイムギャップがあった。

午後に行われた1/8決勝の菊地涼選手は千葉県の選手を差しきれず僅差で敗退した。また、成年ケイリン予選の川勝選手、試合運びは良かったものの力及ばず3組3位で敗者復活戦となった。

トップタイム SP:少年11" 088、成年11" 247 TT:少年7" 930、成年6" 195

ケイリン:少年11" 574、成年11" 453

10月6日(木)

今日は、チームスプリント、チームパシュート及び4千速度競争など多人数の種目なので緊張と集中力が要求される一日です。

最初の種目、チームスプリントの北海道選手は1走が菊地、2走が齊藤、3走が田原のメンバーで出場、スタートや各走者の離脱要領も最終合宿で調整したようにうまく運び、これまでにないタイムが出たものの1' 8" 516で34位、又チームパシュートは大坪、永田、伊藤、木村の長距離メンバーで構成、スタート、先頭交代もスムーズで練習どおりの走りが出来、かつ、タイムも短縮したものの4' 54" 493で38位の結果に終わった。TS、TPともに高得点の団体種目上位各都府県はこの競技に標準を合わせて合宿を重ね国体に臨んでくる中で、9月1回の合宿でのこのタイムはますますの結果と思われる。

成年ケイリン敗者復活戦の川勝選手は、4位に終わり2回戦へ勝ち進むことが出なかった。その後行われた本日最後の種目の4千速度競争、かつての大分国体ではシマノの阿部嵩之選手が優勝した種目である。少年は伊藤舜紀選手、成年は大坪優介選手が出場した。少年伊藤選手はスタート直後から積極的なレース展開により3周回で先頭責任を完了、準決勝進出の4位以内を目指したゴール勝負となったが、スタートからの積極的な展開により足を使ったせいか、惜しくも6位でゴールし準決勝進出はならなかった。成年の大坪選手も前半のチームパシュートの疲れと他の選手のアタック合戦についていけず8位ゴールとなった。

トップタイム TS:三重県1' 04" 291、TP:奈良県4' 25" 135

4速:少年4' 52" 67、成年4' 52" 62

10月7日(金)

今日は6日に続き多人数による競技が多いため、昨日以上の緊張が要求され、又日程的に疲労もピークに近い。朝からポイントレース、4千速度競争準決勝、スプリント1/2決勝、ケイリン決勝、4千速度競争決勝、ポイントレース決勝とビッグレースが目白押しである。

この日の決勝審判は、2班ではなく全員で対応する事になる。特にポイントレースはポイント周回ごとの着順と最終ゴール着順を判定できるかで、審判の技量が問われる種目である。又レース展開を読む日も重要である。

少年ポイントレースの木村選手、積極的に前の集団でポイントゲットを狙うがレース経験不足と上位選手のスピードについていけず16位でゴールとなった。また、愛媛県の小橋勇利選手もロードとは勝手が違いノーポイントの12位でのゴールとなった。

成年は永田選手、シマノ、マトリックス、アンカー、鹿屋大など名だたるメンバーとの同走となり、残り数周回を残してのDNFとなった。

10月8日(土)

今日は、スプリントの5~8位決定戦、3・4位決定戦、決勝、チームスプリント3・4位決定戦、決勝、チームパシュート3・4位決定戦、決勝が行われ、緊張と集中力は維持しつつも、決勝判定は比較的容易な種目が多い。また、午前中で競技が終了し美祢市のロード会場へ移動する。

チームスプリント、チームパシュートはいずれも下馬評どおりとなり、チームスプリントは4位山梨、3位岡山、2位兵庫、そして三重県が1' 04" 234の大会新記録で優勝した。チームパシュートは4位岡山、3位福島、2位岐阜、1位奈良県となった。

10月9日(日)

最終日は自転車競技の華、ロードレースで締めくくられた。少年、成年ともに美祢市をスタート、長門市を經由し秋吉台を周回し美祢市に戻る、少年は116km、成年は秋吉台カルストロードを2周回して美祢市に戻る144.1kmのコースである。

少年木村選手は終始先頭集団をキープしフィニッシュのゴールスプリントで力およばず同タイムの25位でゴール、伊藤選手は途中のパンクでDNFに終わり、愛媛県の小橋選手は8位入賞で面目を保った。完走者は90名中56名、一方成年は大坪選手が先頭から8'遅れの42位、永田選手はカルストロード2周回目の登りでちぎれ、最後のDNFとなり国体を終了した。なお、完走者は90名中45名であった。

国体を振り返って、各選手ともに入賞まで、あと一步と言うところまでの実力を持っていると感じた。半歩は選手自信の課題の克服とそれに伴うトレーニング、あとの半歩は競技連盟の選手強化に対する取組みではないかと思いつつ山口を後にした。

強化副委員長 古舘 一也